

所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

教育格差と累進課税

豊岡中学校 三年 新山 煌矢

僕は、教育についての税金を考えたと思う。教育問題で税金が深く関わるのは教育格差における累進課税が果たす役割である。

累進課税とは、収入が多い人ほど支払う所得税が増える税金である。このお金で生活が苦しい人に生活補助金などのお金のもとになっている。

では、教育格差はどのようにして起きているのだろうか。現在、ゆとりがない家庭が増えているため教育に多くのお金をかけられなくなっている。実際のデータとして親の収入が多ければ多いほど子どもの塾代などの学校外教育支出も多くなっていることがわかる。つまり、親の収入が高い子どもは高いレベルの教育を受けることができる、大学にも進学しやすくなる。そして、その子どもまた、高い収入を得る職業に就くことができる。これは連鎖していくのだ。

僕が通っている塾の先生は子どもの教育支援のボランティアを行っている。先生は、様々な要因で塾に通うことができない児童養護施設の子どもたちにオンラインで学習サポートをしている。その先生が教えている子どもの中に小学四年生なのにも関わらず、お金の計算も容易にできない子がいるときいた。僕は、このような子どもと出会ったことがないため、現在の日本に教育格差があることを初めて実感した。

本来、累進課税とは、このような格差を改善するためにあるはずである。しかし、今回、塾の先生の話を書いて、格差はほとんど埋まっていなかった。

では、累進課税の問題点とは何なのだろうか。僕は、インターネットを用いて調べてみた。今までは、会社勤めのサラリーマンが主に税を納めていた。しかし、最近では、個人事業主が増加している。彼らは、会社に源泉徴収をされることはなく、収入も納税する額も自己申告である。そのため、実際の収入よりも低い収入であったと税務署に申告することができてしまう。だから、本来集められたはずの累進課税の税込より実際の税込のほうで少なくなってしまう。そのため、格差を改善するための適切な財源が無くなってしまい、教育格差などが埋まらなくなってしまう。

今回作文を書くにあたって、累進課税や教育格差について調べた。僕は、教育格差が起きているのは発展途上国だけだと思っていたけれど日本にも同じような問題があることに驚いた。僕は将来教師になりたいと考えている。塾に行けないなどの教育機会に恵まれない子どもに出会ったときに十分大学に行けるような教育ができる教師になりたいと思う。